

# 社会科（地理的分野）学習指導案

展開学年 2 学年

## 1 単元 地理的分野 日本の諸地域「中部地方」

### 2 単元について

本単元では、学習指導要領の「C 日本の様々な地域」「(3) 日本の諸地域」「③ 産業を中核とした考察の仕方」に基づいて、中部地方について取り上げる。地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核として、自然環境や交通・通信などに関する事象と関連付け、産業が地域の自然環境や交通・通信などと深い関係を持っていることや、産業の振興と環境保全の両立などの持続可能な社会づくりが地域の課題となることなどについて考察することが考えられている。

中部地方の地域的特色を捉えるための、単元を貫く課題として『中部地方の産業は、どのような条件に支えられて発達してきたのだろうか?』というテーマを掲げ、産業を支える条件について取り上げることで、自然条件（地形・気候）・社会条件（交通・歴史）の2つの視点に着目し、中部地方の地域的特色に迫ることが可能であると考え。自然条件としては、日本アルプスによって中央高地・北陸・東海に分けられ、それぞれで気候が変わるため、独自の産業が発達したことを追究していく。社会条件としては、江戸時代に東海道や中山道が整備され人や物資の往来が活発になったこと、木材や糸の産業が様々に結び付いて機械工業を軸に発展したことを追究する。これら2つの視点から、中部地方の産業の特色から持続可能な社会へと繋がっている実態を捉えさせたい。

中部地方は、日本列島の中央部に位置し、関東地方、東北地方、近畿地方と接続している。日本の屋根といわれる3,000m超の日本アルプスが北側中央にそびえ、木曾川、天竜川、大井川、千曲川といった我が国固有数の大河川が伊勢湾や遠州灘などの太平洋と日本海に流れ、肥沃な土壌と水の恵みを周囲に与えている。歴史的には、我が国で最初の自由経済を取り入れた織田信長、刀狩で治安を高めた豊臣秀吉、戦乱を治め安定した社会を築いた徳川家康など、近世を切り拓き、現代社会の礎を築いた人物を輩出し、地域への愛着を脈々と受け継いできた歴史文化を有している。江戸時代に入り、東海道や中山道などの陸路が整備される中で海路も整備されていき、伊勢湾や駿河湾、熊野灘などの各地に寄港地が生まれた。こうした陸路と海路によって人や物資の往来が活発になると、各街道や寄港地には宿場町が栄えるようになった。陸路や海路から発展した中部地方の各都市は、交通の利便性や地域の特色を活かしつつ、ものづくりを軸に発展を遂げ、国際的な拠点都市を目指す名古屋を始め、静岡県から愛知県、三重県沿岸の太平洋ベルト地帯を中心に製造業に特化した産業都市が複数形成され、人口10万人以上の都市が分散している。近年では自動車産業や航空宇宙産業、さらにはセラミック産業や楽器産業など、ものづくりの礎を築いた偉人たちを始め、多くの技術者の努力により、世界的な技術を誇る企業が多数集積するものづくりの地方へと発展してきた。

愛知県は、自動車などの工業で有名であるが、農業産出額が全国8位（2022年）と農業が盛んな県でもある。特に、野菜や花の生産が盛んで、キャベツ、大葉、ふき、菊、バラ、洋ラン、シクラメン、観葉植物、うずらの卵など産出額全国1位の品目がいくつもある。このほか、東三河地域を中心に肥育された高品質なブランド肉「みかわ牛」「あいち牛」、「みかわポーク」などを生み出した畜産や、安心・安全

な米づくりを実践する稲作などもバランスよく行われており、品目・品種共に多様であることが特徴である。

知多半島は標高 50～80 メートルのなだらかな丘である。大きな川がなく、田んぼに使う水や生活用水が不足していたため、ため池をつくり、雨水をためて活用していた。水量の多い川から水を引いて、水を豊富に使えるようになることは、知多半島の住民の長年の悲願だった。大干ばつで秋の収穫がほとんどなかった 1947 年、知多の農家が用水をつくろうと決意し、安城農林高校の先生と 2 人で調査をして計画案を作り上げ、地元の行政や国に働きかけて着工にこぎつけた。愛知用水は 4 年間という当時の日本では考えられない短期間で完成した。それが可能になったのは、世界銀行の融資を受けられたこと、外国人の技術者が参加し、大型土木機械を導入したこと、112 キロの水路を 17 分割して同時につくりはじめたこと、そして何より知多半島の農家の熱意があったからである。愛知用水が完成すると米の収穫量が大きく増え、玉ねぎやキャベツなどが栽培されるようになり、知多半島の農業の発展に大きく貢献した。

以上のことを踏まえ、単元を通して生徒に次のようなことを指導していきたい。単元を 5 時間構成とし、第一次では、中部地方を概観し、『中部地方の産業は、どのような条件に支えられて発達してきたのだろうか?』という疑問と予想を立てることで単元全体の見通しをもたせる。第二次の 1 時・2 時では、前時の学習課題に取り組むための資料を用いて、産業が各地の自然条件（地形・気候）と社会条件（交通・歴史）に支えられて発達してきたことを理解する。3 時（本時）では、産業が各地の 2 つの条件の克服（努力）に支えられて発達してきたことを理解する。授業の前半では、愛知用水についての動画を視聴することを通し、水を得るための先人の“努力”について理解させるきっかけとしたい。そして後半では、米・ぶどう・菊・茶という中部地方が生産額 1 位の農産物について、各班がそれぞれの資料を参考に発達の理由を考えることを通し、先人の“努力”についての理解を深めさせたい。単元のまとめでは、中部地方の産業が発展してきた理由について、「中部地方の産業は、〇〇に支えられてきたと言えます。なぜなら・・・。」の形で整理させ、産業が発展するための自然条件（地形・気候）と社会条件（交通・歴史）について一般化する。またその裏には、先人たちの 2 つの条件の克服（努力）によって持続可能な社会づくりが行われてきたこと、また、今後も克服（努力）が必要であることを理解させたい。そうすることで単元を通し、「産業が発達するには、地形や気候の活用や工夫、歴史的な伝統文化の継承、そして、よりよい社会を目指す努力が大切である」ということに思考を至らせたい。

### 3 研究主題との関連

本校の研究主題は「基礎学力を定着させる指導法の工夫～効果的な ICT 活用を通して～」である。本単元では、Google Classroom で資料を見ながら調べ学習を行う活動、発表ノートのグループワーク機能を活用して班で考えをまとめていく活動、大型モニターで各班の考えを全体で共有する活動を行う。考えることが難しい生徒もいるので、班員の考えを参考にしながら考察していけるようにする。最後に、大型モニターで各班の考えを全体で共有し、様々な考えに触れる中で基礎学力の定着につなげていきたい。

### 4 生徒の実態（男子 4 名、女子 16 名、計 20 名）

本学級の生徒は、一小一中の環境であり、7 年間 2 学級で生活をしてきている。男女の人数差が大きいですが、男女の仲も良く、話し合い活動も活発に行うことができる。また、教師の問いに対しても積極的な発言が見られる。発言が苦手な生徒に対しても意見を聞く様子が見られるので、話し合い活動を通して学

びを深められると考える。以下にアンケートの結果を乗せる。(回答 17 名、3 名欠席)

1 地理の学習は好きですか？

好き…5名 どちらかと言えば好き…9名 どちらかと言えば好きではない…3名

2 中部地方のイメージを書いてください。(地理・歴史・その他何でも)

分からない…1名 米…3名 自然…5名 海…1名 山…9名 (内、富士山という記述：2名)  
田舎…1名 農業…2名 信濃川…1名 雪…1名

3 千葉県の野菜の生産額は全国第3位です。なぜ農業が盛んだと思いますか？

自然が豊か…3名 海に面している…4名 (内、川に近いという記述：1名) 温かい…1名  
東京に近い…1名 伝統的な作り方がある…1名 人が増えた…1名 緑と水がきれい…1名  
建物が少ない地域が多い…1名 水はけが良い…1名

4 ギガタブを使った調べ学習は得意ですか？

得意…1名 どちらかと言えば得意…10名 どちらかと言えば得意ではない…4名  
得意ではない…2名

5 ギガタブを使った発表資料の作成は得意ですか？

得意…2名 どちらかと言えば得意…8名 どちらかと言えば得意ではない…4名  
得意ではない…3名

6 ギガタブを使って発表することは得意ですか？

得意…3名 どちらかと言えば得意…7名 どちらかと言えば得意ではない…3名  
得意ではない…4名

アンケート結果から、中部地方は山があるなど自然が豊かという印象をもっている生徒が多いことが分かった。また、農業については、海に面した土地が向いている理解にとどまっている生徒が一定数いることが分かった。農業における川の大切さについての記述は少なかったため、川や用水が農業にとってどれだけ大切かを学習する良い機会にできるように授業を進めていきたい。ギガタブを活用した学習については、半数以上の生徒が得意な傾向にあるので、共有や発表するツールとして使用して学習を促進していきたい。

5 単元の目標

- ・中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。【知識及び技能】
- ・産業を中核とした考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。【知識及び技能】
- ・中部地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。【思考力、判断力、表現力等】
- ・中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

## 6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。</p> <p>○産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。</p>	<p>○中部地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>○中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとしている。</p>

## 7 指導と評価の計画（5時間扱い）

	ねらい・学習活動等（★ギガタブ活用）	知	思	態	評価基準（評価方法）
第一次	<p>[第一次のねらい] 中部地方を概観する。</p> <p>[第一次の問い] 中部地方は、どのような地域なのだろうか？</p>				
1時間	<p>1時：★①中部地方について、地形図や統計グラフなどの資料から概観する。</p> <p>②概観した内容から単元を貫く問いを設定する。</p>	○	●	●	<p>○三つに分かれる地域の地形や気候、日本最大の工業生産額とその他の特色ある産業、東海地方に集中する人口などの特色を理解している。</p> <p>●資料から読み取った情報を適切に文章化している。</p> <p>●産業を中核とした考察の仕方に基づいて設定した問いの答えを予測し、見通しをもって主体的に追究しようとしている。</p>
	<p>【単元を貫く問い】 中部地方の産業は、どのような条件に支えられて発達してきたのだろうか？</p>				
第二次	<p>[第二次のねらい] 産業が各地の自然条件（地形・気候）と社会条件（交通・歴史）、2つの条件の克服（努力）に支えられて発達してきたことを理解する。</p> <p>[第二次の問い] なぜ東海と中央高地、北陸で産業が発達しているのだろうか？</p>				
3時間	<p>1時：★自然条件（地形・気候）に支えられて発達した産業に関する具体的な資料を読み取る。</p> <p>（東海）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わき水→製紙</li> <li>・温暖→みかん</li> <li>・温暖→温室→いちご、メロン</li> </ul> <p>（中央高地）</p>	○	●	●	<p>○産業が各地の自然条件（地形・気候）に支えられて発達してきたことを理解している。</p> <p>●資料から読み取った情報を適切に文章化している。</p> <p>●中部地方の農業の特色を、自然や気候の特色などを示す資料と関連付けて読み取っている。</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・扇状地→水はけのよさ→ぶどう (北陸)</li> <li>・平野→稲作</li> <li>・秋の長雨→品種改良→早場米、銘柄米</li> <li>・雪解け水→早場米、銘柄米</li> <li>・乾田化→稲作</li> </ul>				
第三次	<p>[第四次のねらい] 中部地方の地域的特色を産業の視点から説明できる。</p> <p>[第四次の問い] 中部地方の産業は、どのような条件に支えられて発達してきたのだろうか？</p>				
1時間	<p>1時：★中部地方の産業が発達してきた理由について、発表ノートライブ公開箱に自分の考えを入力し、発表する。</p> <p>「中部地方の産業は、○○に支えられてきたと言えます。なぜなら・・・。」の形で整理する。</p>		○		<p>○中部地方の産業が発達している理由を多面的・多角的に考察している。</p> <p>●●単元冒頭に立てた予測を始めとする自らの学習を振り返りながら、単元を貫く問いを主体的に追究しようとしている。</p>
	<p>【単元の振り返り】</p> <p>中部地方の産業は、中央高地・北陸・東海のそれぞれの地域で、地形や気候の活用や工夫、歴史的な伝統文化の継承、そして、よりよい社会を目指す努力に支えられて発達してきた。</p>				

## 8 学習展開

### (1) 本時の目標

- ・資料から中部地方の産業における地域的特色を読み取り、産業が発達する理由を、自然条件（地形・気候）と社会条件（交通・歴史）、2つの条件の克服（努力）の視点をもって考察する。【思考力・判断力・表現力等】

### (2) ギガタブの効果的な活用

- ・Google Classroom で提示された資料を見ながら、調べ学習を行う。
- ・発表ノートのグループワーク機能を活用し、班で考えをまとめていく。
- ・大型モニターで各班の考えを全体で共有する。

### (3) 本時の展開

指導過程	学習内容と活動	留意点（★ギガタブ活用○●評価）
導入 (10分)	<p>1 地図帳 P171～172 の「②日本のおもな農・水産物の生産（農林水産省資料）」「③日本のおもな工業製品の生産（工業統計表）」を見て、単元の復習をする。</p> <p>・レタスは、標高の高い涼しい場所で栽培している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部地方の産業は、自然条件（地形・気候）に支えられて発達していることを確認する。</li> <li>●中部地方の農業の特色を地形や気候と関連づけて察することができる。【思考・判断・表現】（発表内容より）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ももは、水はけのよい扇状地で栽培している</li> <li>・工業は、大阪と東京の間に位置し、交通網も整っている。</li> <li>・工業は、海に面しているため、貿易に向いている。</li> </ul> <p>2 資料「東三河5市の農業産出額の推移」を見て、約50年で農業産出額が約4倍以上になった理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品種改良を行った</li> <li>・埋め立て地を造った</li> <li>・用水が造られた</li> </ul> <p>3 動画を視聴し、愛知用水について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水は農業や生活に欠かせないもの</li> <li>・用水には先人の努力があった</li> <li>・自然条件を克服するものだった</li> </ul> <p>4 地図帳 P171～172 の「②日本のおもな農・水産物の生産（農林水産省資料）」を見て、中部地方が上位の農産物でまだ授業で取り扱っていないものを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米の生産量1位は新潟県</li> <li>・ぶどうの生産量1位は山梨県、2位が長野県</li> <li>・きくの生産量1位は愛知県</li> <li>・茶の生産量1位は静岡県</li> </ul> <p>5 学習課題を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部地方の産業は、社会条件（交通・歴史）に支えられて発達していることを確認する。</li> <li>●中部地方の工業の特色を交通や歴史と関連づけて察することができる。【思考・判断・表現】（発表内容より）</li> </ul> <p>・東三河5市を大型モニターで確認する。</p> <p>・昭和43年は1968年、平成27年は2015年であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中部地方の産業は、自然条件（地形・気候）と社会条件（交通・歴史）、2つの条件の克服（努力）に支えられて発達していることを確認する。</li> <li>●中部地方の農業の特色を条件の克服（努力）と関連づけて察することができる。【思考・判断・表現】（発表内容より）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業が発達した理由を考える際の視点、自然条件（地形・気候）と社会条件（交通・歴史）、その他について確認する。</li> </ul>
<p>中部地方の農業はどのような工夫で盛んになったのだろうか？</p>		

<p>展開 (30分)</p>	<p>6 米(新潟県)・ぶどう(山梨県)・きく(愛知県)・茶(静岡県)の生産について、どのような工夫で盛んになったのか、班で1品目考える。</p> <p>(米)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広い平野を有効に活用した</li> <li>・冬は降水量が多いため、稲作だけに集中した</li> <li>・秋から雨が多くなるため、出荷を早められるように品種改良を行った</li> <li>・春から夏にかけての雪解け水を稲作に活用した</li> <li>・排水という取り組みがあった</li> </ul> <p>(ぶどう)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋側の夏は降水量が多いので、ぶどうを育てる位置を高くすることで湿気から守っている</li> <li>・水はけのよい扇状地を有効に活用している</li> </ul> <p>(きく)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・照明を使って開花の時期を遅らせ、他の地域が出荷しない時期に出荷している</li> <li>・お墓参りの時期に菊を出荷できるように調整している</li> </ul> <p>(茶)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日当たりのよい斜面を活用している</li> <li>・高速道路ですぐに名古屋や大阪、東京に出荷できる利点を生かしている</li> <li>・大型の機会を使って効率的に作業を進めている</li> <li>・防霜ファンを使って霜から茶を守っている</li> </ul> <p>7 各班の考えを全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳を活用する。</li> </ul> <p>★資料を Google Classroom で提示する。</p> <p>(米)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①越後平野に広がる水田</li> <li>②中部地方の雨温図</li> <li>③日本の最深積雪量</li> <li>④信濃川と利根川の流量</li> <li>⑤乾田に関する資料</li> </ol> <p>(茶)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①富士山と茶畑</li> <li>②新東名高速道路と茶畑</li> <li>③機械を使った茶つみ</li> <li>④防霜ファン</li> </ol> <p>(菊)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①電照菊の栽培1</li> <li>②電照菊の栽培2</li> <li>③菊の出荷本数</li> <li>④お墓参りの時期別作法</li> </ol> <p>(ぶどう)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ぶどうの収穫</li> <li>②日本のぶどう畑</li> <li>③フランスのぶどう畑</li> <li>④ヨーロッパ各地の雨温図</li> <li>⑤ぶどうの生産量の県別割合</li> </ol> <p>★発表ノートをグループワークで共有しながら話し合いを行う。</p> <p>○産業の発達の理由を資料から読み取り、自然条件(地形・気候)と社会条件(交通・歴史)、2つの条件の克服(努力)の視点をもって考察している。【思考・判断・表現】(発表ノート、発表内容より)</p> <p>★大型モニターを使用し、全体で各班の考えを共有する。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>8 本時の学習課題の答えをノートに記入する。</p>	<p>○本時の学習内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(ノートより)</p>

## 9 板書計画

<p>【単元を貫く問い】中部地方の産業は、どのような条件に支えられて発達してきたのだろうか？</p> <p>[本時の課題] 中部地方の農業はどのような工夫で盛んになったのだろうか？</p>					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自然条件（地形・気候）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">社会条件（交通・歴史）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">その他（???)</div>	<p style="text-align: center;">&lt;大型モニター&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>米について</td> <td>ぶどうについて</td> </tr> <tr> <td>菊について</td> <td>茶について</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">本時のまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>中部地方の産業は、自然条件と社会条件の克服に向けた努力によって盛んになった。</p> </div>	米について	ぶどうについて	菊について	茶について
米について	ぶどうについて				
菊について	茶について				

## 10 授業で使用する資料（別紙参照）

## 11 授業を考えるにあたり、「産業」に注目して中部地方についてまとめた図

産業	東海	中央高地	北陸
自然条件 地形・気候	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わき水→製紙</li> <li>・温暖→みかん</li> <li>・温暖→温室→いちご、メロン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・扇状地→果樹</li> <li>・涼しい夏→高原野菜</li> <li>・扇状地→くわ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪解け水→チューリップ</li> <li>・雪解け水→黒部ダム→電力→アルミニウム</li> <li>・雪解け水→アルミニウム</li> </ul>
社会条件 交通・歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せんい工業→自動車</li> <li>・高速道路、埠頭→自動車</li> <li>・石油化学コンビナート、製鉄所→工業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速道路→観光用の農園</li> <li>・交通網→高原野菜</li> <li>・大戦中、工場の疎開</li> <li>・技術、工場、土地→精密機械工業</li> <li>・街道→観光</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本食ブーム→米の輸出</li> <li>・港→アルミニウム工業</li> </ul>
人の努力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治時代の開墾→茶</li> <li>・用水→施設園芸農業→キャベツ、花</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦後の高原の開拓→牧畜、野菜</li> <li>・保冷車→高原野菜</li> <li>・受けつぐ→観光</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地の改良→稲作</li> <li>・品種改良→早場米、銘柄米</li> <li>・米→米菓、切餅、日本酒</li> <li>・砂丘→野菜（すいか）</li> <li>・黒部ダム→電力</li> <li>・高岡銅器の技術→サッシ</li> <li>・冬に農業ができない→伝統産業、地場産業</li> <li>・江戸時代に江戸から鍛冶職人を招いた→くぎ→洋食器</li> </ul>

## 12 参考資料

- ・中部圏広域地方計画 中間とりまとめ（素案） 令和6年12月 中部圏広域地方計画協議会
- ・ホームページ「加藤義人の東海創生コラム」
- ・「愛知の農業 2025」（JA 愛知中央会）
- ・ホームページ（JA あいち経済連）
- ・「よくわかるあいちの農林水産業 2025（前半）」（愛知県）
- ・「水とともに文化を育む1」（水資源機構）